

「地球の声」デザイン小委員会・拡大委員会 @ 北海道

建築デザインにおいて『環境を考える』とは？

—北海道における『環境住宅』の実践事例をもとに議論する—

新建築住宅特集 2016 年 6 月号の『環境住宅』特集における作品群および巻頭論考「自然と繋がる Delightful な建築へ」と題した巻頭論考にはさまざまな意見が寄せられました。「環境」に取り組んでいるという建築家の作品には、外皮性能（高断熱・高气密）をないがしろにしているものが未だ多いのではないか？コストパフォーマンスを考えていないのではないか？といった批評も見られました。そのような批評を踏まえ、公開シンポジウムを発売 1 ヶ月後に開催しました。そこでは、そのような性能とデザインの二元論で捉えるのではなく、（性能担保は当然として）その先の建築のあり方の議論をしなければならないのでは、といった意見が挙がりました。そこで今一度、これからの『環境住宅』のあり方を議論する場を設けることとなりました。

「環境配慮」や「サステナビリティ」は、反対することが難しい「ポリティカル・コレクトネス」の側面があり、ともすれば原理主義に陥り、多様であるはずの具体的な議論を十把一絡げに片付けてしまう危険性をはらんでいると言われていています。そこで、様々な地域（気候風土・文化歴史）において、様々な考えのもと、「環境」に取り組んでいる建築家による「実践」をベースに議論する中で、これからの『環境住宅』の多様な可能性を改めて認識するとともに、これからの建築が向かうべき方向性を炙り出せないか、と考えました。そこで、2017 年 11 月 24 日に東京・建築会館にて、堀部安嗣氏、竹内昌義氏、藤野高志氏、末光弘和氏に登壇いただき、委員会メンバーとともに議論を行いました。

多様な気候帯をもつ日本の中で、最も寒冷な北海道においては、1950 年代より防寒住宅の研究が開始され、1969 年には「北海道防寒住宅建設等促進法」という日本初の断熱性能基準が示されました。これらのことが象徴しているように、北海道は「高断熱・高气密構法による温熱環境制御」に日本で最も早い時期から取り組んできた先進的な地域と言えます。一方、近年、断熱気密構法や高性能ガラスをはじめとする技術の成熟化が進みつつある現在、性能担保の先にある、環境的視点から再考された建築デザインの在り方についての議論こそが求められていると言えます。

今回は、北海道にて、東京でのこれまでの議論を共有させていただきながら、北海道において「環境」について取り組んでいる建築家の方々に多様な実践例をご紹介いただき、上記テーマについて議論を展開できればと考えております。



日時：2018年1月29日（月）18：00～20：30

場所：北海道大学 建築都市デザイン・スタジオ（北海道札幌市北区北13条西8）

スケジュール：18:00～18:05 「地球の声」デザイン小委員会 の主旨説明（塚本由晴：委員会主査）
18:05～18:15 討論会 @ 東京 建築会館の報告+開催主旨説明（川島範久：委員会幹事）
18:15～19:30 北海道における実践紹介
19:30～20:20 ディスカッション（パネリスト+小委員会メンバー+会場）
20:20～20:30 まとめ

主催： 日本建築学会 地球環境委員会「地球の声」デザイン小委員会
参加予定メンバー：塚本由晴、大野二郎、川島範久、能作文徳、金野千恵、アリソン理恵、海野玄陽

共催： 北海道大学・建築都市空間デザイン部門
J I A 北海道支部

申込不要・入場無料 連絡先：川島 範久（norihisa.kawahsima@gmail.com）